

TOPICS

MAFFとは農林水産省の英語表記「Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries」の略称です。「MAFF TOPICS」では、農林水産省からの最新ニュースなどを中心に、暮らしに役立つさまざまな情報をお届けいたします。

取材・文／細川潤子

「バガス」に米を混ぜた「さとうきびごはん」を商品化

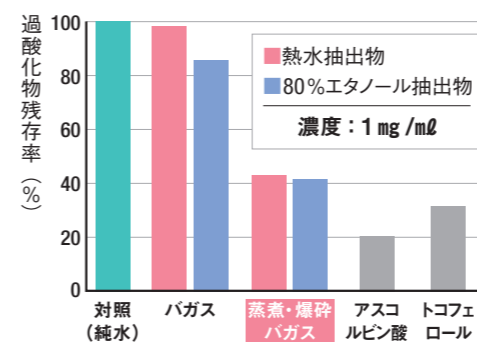


通販の「さとうきびごはんの素」と、レストランで提供する「さとうきびごはん」。ダイエットや生活習慣病予防に効果があると注目されている。写真提供／株式会社沖縄ウコン堂

新技術で抗酸化性に富む食物繊維素材に

「バガス」はさとうきびを搾ったあとの残りかすで、さとうきび全体の約25%を占めています。日本では年間35万tものバガスが発生しており、牛の飼料やボイラーの燃料として使われてきましたが、さらなる活用が望まれていました。バガスは食物繊維が豊富で、食品素材として価値の高い成分が含まれているにもかかわらず、繊維構造が強く食感が悪く、食品としての利用がなされていませんでした。そこで、国立研究開発法人

■蒸煮・爆砕バガスの抗酸化性



抗酸化物質によって過酸化物質の残存率が低くなれば、それだけ抗酸化性は高い。蒸煮・爆砕バガスはアスコルビン酸、トコフェロールに近い低さで、抗酸化性があることが分かる。

農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所、国立研究開発法人森林総合研究所、琉球バイオリーソース販売株式会社の共同研究により、バガスに蒸煮・爆砕処理、酵素・発酵処理を行うことで、オリゴ糖に富んだ食品素材として利用できる技術を開発しました。バガスを200℃の高圧水蒸気中で数分間加熱後、急激に大気圧に放出（蒸煮・爆砕処理）すると、細胞壁組織が破壊されます。さらに麹菌等による発酵（酵素・発酵処理）を行うことで、キシロオリゴ糖含有量が高く、抗酸化性に富む新規の食物繊維素材になります。「キシロオリゴ糖はビフィズス菌の増殖効果があり、カルシウムの吸収を促進するなどの機能性を持っています。また、アスコルビン酸（ビタミンC）やトコフェロール（ビタミンE）は、抗酸化性が高いですが、蒸煮・爆砕バガスの抽出物もこれらに近い抗酸化性があります（上グラフ参照）」（東京農業大学応用生物科学部醸造科学科・柏木豊教授）

蒸煮・爆砕後に発酵させたバガスは商品化され、沖縄・那覇市内などのレストランでは、米と混ぜて炊き込んだ「さとうきびごはん」を提供。家庭向けには「さとうきびごはんの素」として通信販売も行っています。



NEWS-1

「JAPAN HARVEST 2016」を東京・丸の内で開催

4つのエリアで楽しむ「丸の内農園」

農産物が集まる市場
Waku Waku Marche

生産者こだわりの農産物、大学生が生産した野菜などが集まるオリジナルマルシェ。

農業体験が出来る畑
Agriculture Field

動物との触れ合いや農業女子PJとコラボしたトラクター試乗などの体験ができる。

ニッポンの食に出会う泉
Japanese Food Fountain

「食」を軸に広がる新しい食べ方や作り方、知られていない情報を提供。

地域産品が溢れる森
Sanpin Forest

普段はなかなか出会えない日本全国のさまざまな地域産品が集まる。

農業体験からおいしい食との出会いまで

消費者と生産者の絆、日本と世界の絆を深めることをコンセプトとした「食と農林漁業の祭典」の一環として、「ジャパンハーヴェスト2016」を11月5日（土）、6日（日）に開催します。場所は東京駅丸の内エリア。開催5年目を迎える今年は、丸の内農園をテーマに、日本の農業や

農林水産物、食文化等を親子で学び、楽しめる空間を出現させます。特色ある4つのエリアでは、野菜の収穫体験やトラクターの試乗、和食の特徴であるだしの試飲などのほか、全国の地域産品やフード・アクション・ニッポンアワード入賞産品の試食・販売などが行われます。また、会場に隠された答えを探す「宝探しクイズラリー」では景品がもらえるチャンスもあります。

約80もの生産者・企業・団体の自慢のメニュー・商品がブースに並ぶ。



上／食と農林漁業に関わる取り組みを行う大学生グループによるコンテスト「食と農林漁業大学生アワード」。昨年は北海道の「あぐりとかち」が農林水産大臣賞を受賞。下／高校生による地域食材を活用した料理コンテスト「ご当地！絶品うまいもん甲子園」決勝大会に出場した料理を提供。



※写真は平成27年度のものです。

「JAPAN HARVEST 2016」

日時：平成28年11月5日（土）、6日（日） 11:00～16:00
場所：東京駅丸の内エリア
入場料：無料



あふラボ トリビア さとうきびからつくられるお酒

さとうきびからつくられたお酒として有名なのはラム酒です。さとうきびから砂糖を製造するときには発生する液体＝廃糖蜜が主な原料。ほかには黒糖焼酎やブラジルのピンガなどがあります。

読者の声

読者の皆さまから寄せられた「aff(あふ)」9月号へのご意見・ご感想を紹介します。

「非常食」の3日分の目安が大変役に立ちました。阪神・淡路大震災後から非常食をリュックに詰め、目につくところに置いて時々賞味期限を確認して使うようにしています。(60代以上・女性)

バックッキングでのご飯の炊き方を初めて知り、とても参考になりました。(50代・男性)

保存食がこれほど長持ちするとは驚きでした。しかもどれもおいしくて、技術の進歩を感じました。(50代・男性)

非常食として特別に用意しなくても、日頃の生活の中で少し意識するだけで、いざというときに役立つと思いました。(50代・女性)

「工場見学」は、食品の加工技術を学べる楽しい施設だと感じました。企業側のアピールポイントも変わりつつあり、子どもや友人を誘って一緒に行ってみたくなりました。(60代以上・男性)

「あふラボ」の凍結含浸法。介護食が見た目や味にも配慮されるようになり、喜ばしいことです。食事というのは単に必要な栄養をとるだけではなく、生きる喜びにもつながるものだと思います。(40代・女性)

広報誌aff(あふ)の感想をお聞かせください

今後もよりよい広報誌とするため、読者アンケートにご協力ください。農林水産省のホームページ、広報誌affのサイトから回答できます。



メールマガジンのご案内

大田メッセージや施策の紹介、イベント情報などをお届けする「農林水産省メールマガジン」を毎週月曜日に発行しております。ぜひご登録ください。無料です。
http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/

フェイスブック・ツイッターのご案内

フェイスブック <https://www.facebook.com/maffjapan>
ツイッター https://twitter.com/MAFF_JAPAN

企業の農業参入を促進する「農業参入フェア2016」

NEWS-3

農林水産省および全国農業委員会ネットワーク機構では、農地中間管理機構を活用した企業の農業参入を促進するため、「農業参入フェア2016」を開催します。農業参入を希望する企業と、企業を誘致したい地域等の関係者を一堂に集め、先進事例の発表や、農業参入などをテーマにしたセミナーを行っています。そのほか、都道府県・機構と参入希望企業とのマッチングブースを設置。具体的な企業の農業参入につなげていくことが目的です。

平成28年9月7日(水)の東京を皮切りに、福岡(10月18日(火))、名古屋(11月22日(火))、大阪(29年1月25日(水))の4会場で順次開催しています。



左/参入企業によるセミナー。
右/相談に応じるブースの様子。

NEWS-4

技術交流展示会「アグリビジネス創出フェア2016」を開催

「アグリビジネス創出フェア」は、全国の産学の機関が有する農林水産・食品分野などの最新の研究成果を、展示やプレゼンテーションなどで分かりやすく紹介し、研究機関間、研究機関と事業者との連携を促す場として開催する技術交流展示会です。

今年は12月14日(水)～16日(金)に開催し、会期中は農林水産・食品産業分野の専門家がマッチングコーディネーターとして出展者と来場者の連携を支援。研究成果の実業化や商品化に向けて、研究機関同士または研究機関と企業の情報交換や相互の交流を促進します。

そのほか、農林水産・食品・技術開発などのホットな話題を提供する講演・セミナーや、出展者との相互交流会など、さまざまなイベントを開催する予定です。



アグリビジネス創出フェア 2016

会期：平成28年12月14日(水)～16日(金)
10:00～17:00
会場：東京ビッグサイト 西4ホール
東京都江東区有明3-11-1
入場料：無料(事前または当日登録が必要)
※詳しくはWEBページをご覧ください。

<http://agribiz-fair.jp/>

※写真は平成27年度のものです。

NEWS-2

国内2地域をユネスコエコパークに推薦

白山

富山県・石川県
福井県・岐阜県

日本最西端の2,000m峰・白山を中心に、4県7市村の環白山地域が対象。白山の高山植物、ブナ林、世界文化遺産「白川郷・五箇山の合掌造り集落」などが魅力。



綾

宮崎県

九州南東部・宮崎県綾町周辺の地域。綾川流域は日本最大の照葉樹自然林が残り、夏緑広葉樹のブナの自然林が一部現存。

屋久島・口永良部島

鹿児島県



屋久島、口永良部島と沿岸の海域。屋久島は日本初の世界自然遺産に登録。口永良部島は現在も火山活動を続ける山がある。



志賀高原

長野県・群馬県

上信越高原国立公園の志賀高原を中心としたエリア。原生林が残る亜高山帯の針葉樹林や落葉広葉樹林が広がり、大小30あまりの池沼や湿原が散在している。

国内のユネスコエコパーク

みなかみ(候補地)

只見

福島県

会津朝日岳、浅草岳などの山々に囲まれた山間地域。ブナをはじめ落葉広葉樹林、針葉樹林、低木林などが原生的な状態で存在する。



撮影/広瀬和弘

南アルプス

山梨県・長野県・静岡県

3,000m峰が連なる山岳環境で日本を代表する自然環境を有する。3県10市町村がユネスコエコパークとして結束。

ユネスコエコパーク推薦決定地域

●祖母・傾・大崩 [大分県・宮崎県]
九州最高峰級の山々からなり、幅広い植生やソボサンショウウオなどの希少種が見られる生物種の宝庫。神楽が域内の各地で見られるなど、自然への畏敬の念が文化として根づいている。

●みなかみ [群馬県・新潟県]
群馬と新潟の境界の山稜一帯は太平洋側と日本海側の大気がぶつかる中央分水嶺。世界でも有数の豪雪地帯。多様で希少な動植物が育まれ、独自の生態系が見られる。

現在国内には7つのユネスコエコパークがあります。今年「祖母・傾・大崩」(大分県、宮崎県)および「みなかみ」(群馬県、新潟県)を推薦することが決まりました。平成29年5～7月にユネスコ本部で開催されるユネスコMAB計画国際調整理事会で、登録の可否が決定される予定です。

現在国内には7つのユネスコエコパークがあります。今年「祖母・傾・大崩」(大分県、宮崎県)および「みなかみ」(群馬県、新潟県)を推薦することが決まりました。平成29年5～7月にユネスコ本部で開催されるユネスコMAB計画国際調整理事会で、登録の可否が決定される予定です。

生物圏保存地域(国内呼称ユネスコエコパーク)は、生物多様性の保全、持続可能な開発、学術研究支援を目的として、昭和51年にユネスコが開始した制度です。ユネスコエコパークの登録は、各国からの推薦をもとに「ユネスコ人間と生物圏(MAB)計画国際調整理事会」において審議、決定されます。

来年度の審議で登録の可否を決定